

令和6年度 学校評価

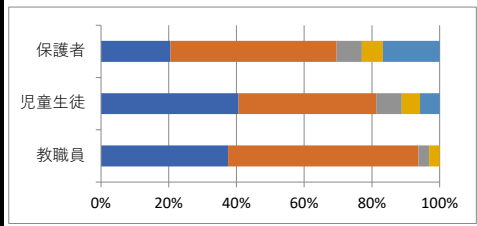
■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ わからない

(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		考察
1 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進 学校は、豊かな心と健やかな体を育む教育の充実に向けていると思いますか。 (感動・感謝、郷土愛、いのちを大切にすること、子どもの体力向上、基本的な生活習慣など)	2 自ら学びに向かう力を育む教育の推進 学校は、子どもが自分で考え、自分から取り組む授業づくりに取り組んでいると思いますか。	「豊かな心と健やかな体を育む教育の推進」については肯定的意見の割合が、保護者85%（前年比+8%）であり、道徳の授業の充実を図り、生徒が活躍する学校行事が実施できた成果と言える。 「自ら学びに向かう力を育む教育の推進」については、保護者の「わからない」と回答した割合が17%であった。授業参観等の保護者への周知徹底を図り、授業公開の機会をこれまで以上に設けていきたい。
(1) 主体的に考え行動する力を育む教育の推進		
3 社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進 学校は、学校生活や地域社会をよりよくするために考えたり、行動したりすることの育成に、取り組んでいると思いますか。(児童会・生徒会活動、学校のまわり見直し、地域のよさを伝えたり課題解決したりする取組、ナイスライ(中学校)など)		「社会の形成や持続的発展に主体的に貢献する力を育む教育の推進」については、生徒は77%の肯定的意見にとどまっており、1年生の総合学習について3学期を中心に取り組むこと、坪井川清掃活動が中止となったことが影響していると考えられる。本校校区は熊本市の商業の中心であり、行政や交通・観光の要所を含むという特色を生かし、地域の魅力を外部に発信し、住みよいまちづくり計画につながるよう、発展的な思考力を養う取り組みを行っていく。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
4 5 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 学校は、子どもが、学習の方法やペースを自分で選んだり決めたりしながら学び、授業づくりを行っていると思いますか。	学校は、子どもが、対話などを通して、他の人の考えや意見を自分の学びに生かすような授業ができていると思いますか。	保護者の「わからない」と回答した割合が20%を超えており、こどもの主体的な学びの姿が保護者に届いていないことがわかる。こどもの学びの姿を示し、授業や各活動を通じて個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図り、保護者への理解を求めたい。
(2) こども一人一人を尊重した教育の推進		
6 特別支援教育をはじめとする多様な教育的ニーズに対応した支援の充実 学校には、子どもが助けを必要とするときに、先生や友達から支えてもらえる温かな雰囲気があると思いますか。	7 インクルーシブ教育の推進 学校では、子どもがそれぞれの違いを認め、お互いを尊重し合って共に学び合っていると思いますか。	本校には通級指導教室があり、今年度から不登校対策サポーターの配置がある。そのような中で特別支援教育の充実を図っており、交流学級での活動も適時行っているところである。また、隣接するあおば支援学校との交流も今後さらに推進したい。
(3) 最適な教育環境の整備		
8 安全・安心な園づくりの推進 学校は、こどもの安全を守る環境の整備を進めるとともに、安全教育(生活・交通・防災など)に取り組んでいると思いますか。	9 地域や家庭と連携した教育環境の整備 学校は、地域や家庭の人と協力して、授業や行事などの教育活動を進めていると思いますか。	「安全・安心な園づくりの推進」では、保護者の「わからない」の割合が14%（前年度比-3%）、 「地域や家庭と連携した教育環境の整備」では、「わからない」の割合が13%（前年度比+5%）となっている。安全教育の取り組みについて、学校だより等とおして保護者に発信し、地域連携では行事等で協力を仰ぎ、連携して取り組んでいく。今後も、交通安全や校内の事故防止について月1回の安全点検を活用して充実させたい。

(4) こどものいのちと権利の擁護

10 こどもの最善の利益を守る環境づくり

学校は、こどもの意見を反映させ、こどもの権利を守るとともに、こどもや保護者が相談しやすい学校づくりに取り組んでいると思いますか。

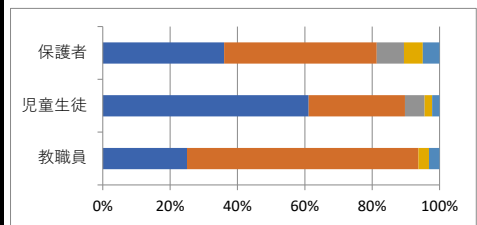


「こどもの最善の利益を守る環境づくり」については、69%の保護者、82%の生徒が、学校の取り組みを肯定的にとらえることができている。17%の保護者が「わからない」と回答しており、毎月のきずなアンケートや学期ごとの教育相談等とおして、これまで以上に生徒の心の声に耳を傾け、家庭や関係機関とも密に連携しながら生徒の変容に注意を払っていきたい。

独自項目

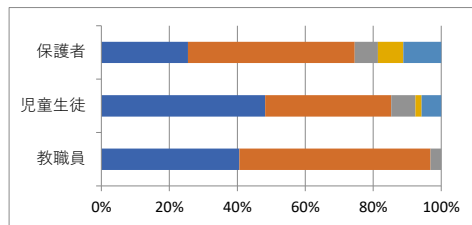
独自項目1

学校は、「学校が楽しい」とこどもたちが思う活動に取り組んでいると思いますか。



独自項目2

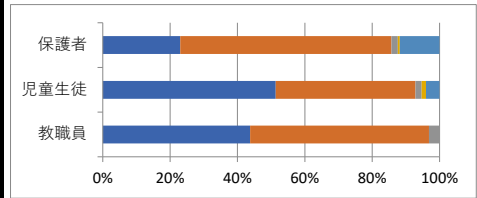
学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。



「学校が楽しい」では、90%（前年度比+1%）の生徒が「学校が楽しい」と回答している。学校生活全般・授業等も含め、肯定的に捉えている生徒がほとんどであるが、そうではない生徒が少なからずいることにも焦点をあて、個別最適な学びの充実とともに、子どもたちが意欲をもって学ぶ授業づくりを目指し、取り組みを行う。

独自項目3

学校は、生徒が学校生活を送る上での基盤となる力や社会で生きて働く力を育むために、特別活動（学級活動、生徒会活動、学校行事）に取り組んでいると思いますか。



「一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応」については、「わからない」と回答した保護者の割合が11%（同±0%）で、学校の取り組みを学校だより等で保護者へ発信していく。「特別活動」については委員会活動を活性化し、生徒会活動をおして、生徒自ら考え行動する取り組みを充実させていく。

来年度の具体的な取組について

- 本校の重点目標である「5つの保障」について、「生徒会活動の推進」、「ボランティア活動の推進」、「落ち着いた生活【あそぶじ】」を柱に、藤園プライドの育成を図りつつ、地域、保護者、関係機関の協力を得ながら特色ある学校づくりを行っていく。
- 「人権の保障」について、学校開放週間（授業参観Days）に合わせて、全学級において道徳の公開授業（親子道徳の日）を実施し、保護者と共に思いやりの心、自立（自律）する心の育成を図る。
- 「学びの保障」について、まずは子どもたちに学習規律を確立し、深い学びの教材研究、学習展開の工夫などを行うとともに、ICTの効果的な活用推進をさらに図り、「主体的・対話的で深い学び」のある授業実現に向けた授業改善に取り組む。また、職員のニーズに基づいた、実践に直結する研修実施を適宜行い、職員同士の日常的な学び合いの機会を充足させ、OJTによる若手教員の育成を図る。
- 「健康の保障」について、本校の健康課題の一つである「睡眠」の改善のために、学校医と連携し、学校保健委員会の取組（午睡の時間の導入等）が生活に結びつくよう意識的に解決を図りたい。また、今後も体力向上を目指し、体育の授業や学校行事等において年間計画を見直しながら体力づくりに取り組んでいく。
- 「輝きの保障」について、生徒会活動の活性化を図る。子どもたちが学校生活上の諸問題の解決に向けて取り組む際に、子どもの自主性、自発性を尊重し、子どもが自ら活動の計画を立て、それぞれの役割を分担し、協力し合って集団活動を進められるよう、教師が適切に指導する。
- 「安心・安全の保障」について、特別な支援を要する生徒の実態や特性の把握に努め、特別支援教育コーディネーターを中心に校内支援委員会を定期的に実施し、学年・担任との情報共有、保護者や関係機関との連携をおして学習および生活習慣の確立と個に応じた学習支援の充実を図る。

小中学校関係者評価

- 学校評価アンケートの各項目で、保護者の意見の「わからない」についての割合が高い。保護者が学校について「知りたいこと」を把握する必要がある。保護者が学校に対して何を不安に思っているのかを掘り下げるとアプローチができる。
- 不登校生徒の対応について、今年度から不登校対策サポーターの配置があつているとのことだが、外部機関との連携もこれまで以上に重要になってくると思われる。熊本市児童家庭支援センターアグリが18歳までの子どもに関する相談を受け付けている。保護者に周知をお願いしたい。また、ある校区では不登校生徒が小学生に勉強を教える取り組みを行っている。生徒の自己存在感を高める取り組みでもあるのでぜひ参考にさせていただきたい。
- 子どもたちの下校の様子を見かけるが、数人で楽しそうに歩いている。学校生活が楽しいのだろうと思った。